

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業	
事業名	アヴォス ピアノ四重奏団コンサート			
目的・内容	地元・倉吉市出身のヴァオリニスト山田美怜が、イタリアを中心に活躍する若いイタリア人演奏家3人とともに結成したアヴォス ピアノ四重奏団による室内楽コンサート及びワークショップを開催する。若い世代を含む地域の音楽レベルの向上に寄与する。ワークショップを通じ、弦楽の本場イタリアの文化を学生や子どもたちに感じる機会を提供することで、国際交流と併せて、弦楽の技術・音楽的向上を図る。 ※ワークショップ… 10月24日実施、参加38名			
開催日時	①平成21年10月25日(日) 開演14:00 ②平成21年10月26日(月) 開演19:00			
会場	倉吉未来中心 小ホール			
入場料・参加費 (友の会・団体)	一般:3,000円 (2,500円)	2日間通し券:5,000円 (設定なし)	高校生以下:1,000円 (700円)	
集客状況	入場者数 471名(2日間)	設定席数 600席(2日間)	集客率 78.5%	
事業費状況	予算額	収入 1,475,000円	支出 1,940,000円	収支比率 76.0%
	決算額	収入 1,189,100円	支出 1,721,712円	収支比率 69.1%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内楽の魅力を再発見できました。</li> <li>・4人であんなすごい演奏ができるとは思いませんでした。カルテットは圧巻でした。</li> <li>・ピアノの音が大きすぎる。ヴァイオリンの音が死んでしまう。</li> <li>・アンサンブルがまだかたい。</li> <li>・構成として、2、3、4(人)と音の厚みがわかるのも面白いと思いました。</li> <li>・イスの間隔が狭い。温度がやや高い。</li> <li>・聴衆のマナーが良かった。最高でした。</li> <li>・配られた大量のパンフレットが演奏中カサカサうるさくて良い音楽が台無しだった。</li> </ul>			
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会と密接な連絡を取り、会議を計4回開催し、情報などの共通認識を持つことができた。当日の運営においても、業務の役割分担をし、円滑な運営ができた。</li> <li>・2日連続の違うテーマを持ったプログラムで、クラシック愛好者の音楽的探究心をより満たすことができたと思われる。</li> <li>・実行委員会において組織的な販売を行うことができ、総売上上の71%を占めたが、それ以外の販売面が振るわなかった。また海外で活躍する県出身のアーティストを広く周知させる広報が課題である。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会との共催で、チケット販売を互いに促進する上で、席種設定は自由席が便利だが、常時、きめ細かいチケット管理が必要になる。今回の様に小規模のクラシック公演では指定席の検討も行う余地がある。</li> <li>・実行委員会において、組織的な販売が遂行されたが、今後においても、他の団体と共催する場合、このような良好な協力関係を築く必要がある。</li> <li>・今回のように、演奏形態の特徴、持ち味を活かしたワークショップ、演奏プログラムを企画することも、財団主催事業の独自色を出す部分として今後も取り組んでいくことが必要である。</li> <li>・優れた県出身のアーティストを広く紹介する場合、事業主旨、目的を捉え、今回の様に新聞・テレビ等のメディアをより活用する工夫を継続する。</li> </ul>			
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップを企画したり、二日連続別プロの演奏会の実施など積極的で良かった。プログラミングもソロ・二重奏・三重奏・四重奏と設定されており、興味深いものであった。</li> <li>・さまざまな人との協働で、良い相乗効果を生み出している。</li> <li>・実行委員会との連携が充分取れていて良好な関係で実施できたようで、充分評価できるが、反面財団として、実行委員会に頼りすぎた面は無かったのか、点検する必要がある。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このスーパーアンサンブルを、今後、世界に飛躍する(もう飛躍しているが)する際の下支えとなるような存在となることを惜しんでほならない。</li> <li>・若い世代が主体的にワークショップを受け止め、参加するような状況を作ること。</li> <li>・地元の若い目を育てる意味は大きい。その意義をより高めるためにも、より積極的な財団主催のワークショップ事業の展開を考えて欲しい。</li> </ul>			
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、ワークショップの手法を取り入れながら、若い層の拡大を図っていく。</li> <li>・地元アーティストが出演する公演は、協働、連携ができる体制作りを行う。(良好な協力関係)</li> <li>・演奏形態の特徴、持ち味を活かしたワークショップ、演奏プログラムを企画することで、財団主催事業の独自色を出していく。積極的に西部地区の文化施設・文化団体との連携(協働)を通してネットワークを拡げる。</li> </ul>			